

子育てコラム 43

性教育(命の教育) その7

「ひいひいひい…おじいちゃんと、ひいひいひい…おばあちゃんからの命のバトン」

命の始まりは0.2ミリのちっちゃな受精卵です。

女の子は卵子の赤ちゃん(原始卵胞)を卵巣に約200万個持って生まれてきます。その後卵子の数は減り、思春期には20万~30万個になります。初経(初潮)を迎える時期は10歳から14歳頃で、卵胞はどんどん成熟して排卵します。無排卵のこともあります。

男の子は思春期になってから精子が作られます。精通(初めての射精)は中学生の時期が多いですが、それでも中学3年生の男子で約50%です。いつ精通を迎えたかはっきりしないという男子も多くいます。女子は中学3年生で95%が初経を迎えています。

子どもから大人への変化は体の大きさだけでなく第二次性徴の変化があります。このような変化は命をつないでいくためのものです。子ども達には科学的に伝えていきましょう。

女の子は、初経の時の気持ちや養育者からの言葉がけは、年を重ねても忘れることはありません。体をいたわる温かい「おめでとう」の言葉をかけてあげたいものです。月経時の手当ては学校でも教えてくれますが、集団ですのでその子に合わせた伝え方はできません。体を大事にすることを伝えられる良い機会ですので、一番身近な人が教えてあげましょう。大切なことを伝えるときの、「子どもとの時間の共有」も大事にしていきたいことです。

思春期の子ども達は、二次性徴で変化していく体のことが気になったり悩んだりします。体は皆ひとりひとり違うことも伝えてあげてください。前月号でご紹介した2冊の絵本にも詳しく丁寧に載っています。是非参考にしてください。

受精、命の誕生は、太古の昔からつながっています。「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」(長谷川義史作/BL出版)、この絵本には数えきれないほどの「ひいひい…おじいちゃん」が描かれています。私たちは限りなく続いている命をつないでもらっているのです。ひいひいひい…おじいちゃんと、ひいひいひい…おばあちゃんからつながっている命なのです。私たちはひとりの人間だけど、ひとりではないのですね。子ども達にも伝えていきたいものです。

性は人権そのものです。皆が「からだの権利」を持っています。

今回は「性犯罪から身を守る」についてお話しさせていただきます。